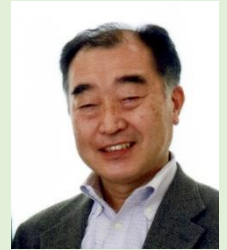


## ▼コラム

わかり易い土木 第11回 防災の話  
BCP

シビルNPO 連携プラットフォーム 常務理事/事務局長/土木学会連携部門長  
土木学会/シビルNPO 推進小委員会 委員長  
メトロ設計(株) 取締役

田中 努



みなさん、「BCP」という言葉は、聞いたことがあると思います。「Business Continuity Plan」の頭文字を取った言葉で、「事業継続計画」のことです。事故・事件・災害（地震・風水害・疫病等）が起きても、事業が継続できるように、予め対応を計画して準備しておくことです。今回は「BCP」の始まりと取り組みスタンスの話をしていきましょう。なお、マネジメントの基本はPCDAを回すことですが、「BCP」はこの「P（計画）」に当たるため、それを意識して、「BCM（Business Continuity Management）」という言い方もされます。

## ■BCPの始まりと広がり

何が起きても生活を継続したいのは人の極自然な欲求ですから、「BCP」の始まりは、大分古いかも知れませんが、例えば、リスク対応の1つの「保険」は、14世紀の大航海時代の「海上保険」に始まりますが、11世紀の十字軍遠征の頃に、既に「冒険貸借」という保険があったそうですから・・・。

私と同世代や先輩方は「コンティンジェンシープラン（Contingency Plan）」というのを学んだと思います。「緊急時対応計画」とか「不測事態対応計画」と訳され、これが「BCP」の前身のようです。1980年代の欧米で、金融機関の情報システム化が広がり、システム停止時の問題対応として「コンティンジェンシープラン」が策定されました。日本では、1995年の阪神淡路大震災での早期復旧の難しさから、多くの企業で「コンティンジェンシープラン」が策定されたそうです。

米国の「タイレノール毒物事件」、ITの2000年問題、ハリケーン対応などに、緊急時の対応だけでなくリスクマネジメントとしてのニーズが高まり、2011年の同時多発テロで、世界貿易センタービルのメリルリンチ社が異例の速さで平常業務に戻ったことを契機に、世界中に広がった言われます。

## ■BCPとは

「BCP」は、右図の「復旧曲線」の考え方で計画されます。「BCP」は、事件・事故・災害等が起きると、被害の内容は異なりますが、組織のパフォーマンスが急激に低下します。いかにA点の低下を抑えるか、いかにB点までの応急復旧を高めるか早めるか、いかにC点まで本復旧を早めるかの計画と準備です。図の詳細は、CNCP 通信 Vol.73の巻頭言「緊急事態宣言の発令に思う」を見てみてください。

自治体の「BCP」は災害毎に作られますが、企業では行動毎にまとめた「マルチハザード BCP」というのが始まっています。コロナで多くの飲食店が事業を断念しましたが、BCPが必要でした。家庭でも、生活を継続させるために必要では？と思います。

最後に。東日本大震災の実体験にもとづく「災害初動期指揮心得」国土交通省東北地方整備局（平成25年3月）の見開き扉に、こんなことが書いてあります。「備えていたことしか、役には立たなかった。備えていただけでは、十分ではなかった。」2年間昼夜の応急復旧に指揮を執った方の言葉です。

